

はじめに

急速に拡大するデジタルトランスフォーメーション(Dx)は保健医療分野にも及び、国民の携帯端末からの健康情報に気軽にアクセス・管理する世界はすでに到来している。このような環境下において個人の特定健診情報の利活用は、公衆衛生を含む保健医療分野で推進すべき重要な課題となっている。循環器疾患のリスク因子の評価では、ベースライン時の測定値の評価だけでなく、経年的なリスク因子の推移・変動が循環器疾患発症・死亡にどう影響するかといった検討が重要性を増しており、頑健な方法論に基づいた研究成果が求められている。

わが国の循環器疫学分野で世界的に誇れる研究成果が発信されてきたコホートの統合研究である EPOCH-JAPAN(Evidence for Cardiovascular Prevention From Observational Cohorts in Japan)は、今まで個人および集団における将来的な循環器疾患のリスク評価のエビデンスを国内外に発表してきた。本研究班はこの EPOCH-JAPAN を継承し、循環器疾患の生涯にわたるリスクを対象にして(1) 個人における経時的なリスク因子の変動を考慮した解析、(2)集団レベルのリスク因子情報の利活用による地域における中長期的予測(10年以上)の可能性の検討、(3) 今後の健康づくり運動(健康日本21)の目標設定や評価指標の開発、(4)個々のコホートの追跡期間延長と新規コホートの追跡調査の4テーマについて3年間班員全員で検討を重ね、コロナ禍にもかかわらず十分な成果を上げることができた。

アジア・太平洋地域における最大規模の循環器コホートデータベースを利用し、国内外の著名学術雑誌に発表された本研究班のエビデンスは、日本人集団における貴重な研究成果であり、わが国の知的財産といえる。この大規模データベースを用い、日本を代表する疫学研究を牽引する研究者により展開される本研究成果をもとに、わが国の循環器疾患予防のための行政施策が推進されることを大いに期待する。

研究代表者

東邦大学医学部社会医学講座医療統計学分野

教授 村上 義孝

令和5年3月31日